

《原 著》

虚血性心疾患における運動負荷後の左室収縮と心筋灌流

心電図同期心筋断層像における検討

成田 充啓^{*,†} 栗原 正^{*} 新藤 高士^{*} 澤田 善博^{*}
本田 稔^{**}

要旨〔目的〕虚血性心疾患(IHD)における心筋虚血回復後の左室壁運動(WM)と心筋灌流(MP)との関連を^{99m}Tc-MIBI心電図同期心筋断層像(G-ECT)で検討した。〔方法〕運動負荷30分後(Ex-30),3時間後(安静時,R)にG-ECTを撮像した。64例で左室造影(LVG)とG-ECT(R)で左室駆出率(EF),WMを対比した。IHD80例でEx,RでのMPとEx-30,RでのWM,EFとの関連を検討した。〔結果〕LVGとG-ECTでEFは $r=0.907$ ($p<0.001$),WMは κ 値0.67とよく一致した。IHDでExで生じたMP異常がRで消失した症例の85%,縮小した症例の58%で虚血部に一致したEx-30でのWMの異常がRで改善,EFも改善した。固定性欠損(FD)の多くではEx-30,RでWM,EFは不変であったが,12%ではRでFD部のWMの改善をみた。〔結論〕Exで生じた虚血域では虚血消失後(Ex-30)も高頻度にWMの障害(stunning?)が存在した。FDを示す症例にもRでWMの改善例があり,さらに検討の要ありと考えられた。

(核医学 38: 19-29, 2001)